

銅の電気銅が減少、内需の低迷で

自動車は増加も今後は調整が入る可能性も

橋本健一郎氏リポート①

■国際概況

九月前半は、八月の中国自動車販売台数が前年度比六・九%減少と発表され、同国の自動車販売台数が一四カ月連続して減少し続けていることが明らかになったこと、八月の中国貿易統計で輸出・輸入とも前年割れとなり、足元の銅の需要の低迷も裏付けられたことなどのマイナスマaterialもあったが、トランプ米大統領が二、五〇〇億ドルの中国製品に対して、現行の二五%から三〇%への関税引き上げを二週間延期したこと、中国人民銀行が預金準備率を〇・五ポイント引き下げたことを発表したこと、を好感しLME銅相場はUP、九月十四日時点で五、八七〇ドル(セツル)と月初価格より二六〇ドルUPの前半締めとなった。

後半はトランプ大統領が米中間での通商合意が予想よりも早く実現する可能性がある、との見通しを示したことなどのプラス材料もあったが、八月の中国鉱工業生産や小売りなどの経済指標が予想を超える弱含みとなったこと、サウジアラビアの石油生産設備が攻撃され同国産油高が五〇%減少を受けた原油暴騰を嫌気、LME銅相場はDOWN、十月一日現在、後半スタート価格から一二七ドルDOWNの五、七二八ドル。銅建値は据置の六六万円スタート。

■前月の経済指標

◆月間のドル/円レート (TTS)

一〇八・一四→一〇八・八四(円)。

◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると、七月の自動車生産台数は前年比一一・八%増の八九万六、九〇六台であった。

輸出(八月)は三四万九、五一八台で、前年同月比五・九%減。

◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると、九月の自動車販売台数(軽除く)は前年比一二・八%増の三四万七、七〇六台。

◆新設住宅着工件数推移

令和元年八月の住宅着工戸数は七万六、〇三四戸で、前年同月比で七・一%減となった。また、季節調整済年率換算値では

八九・二万戸(前月比二・一%減)となった。住宅着工の動向については、前年同月比で二カ月連続の減少となっており、利用関係別にみると、前年同月比で分譲住宅は増、持家及び貸家は減となった。

◆貿易関連指標

輸出

財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電気銅が七・一%減の四万六、二四一t、スクラップが二・一%増の二万二、九四二t。

輸入

輸入は電気銅が前年比九六・五%減の一〇〇t、スクラップが〇・七%増の一万七四t。

■前月の国内指標

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前年比一〇・八%減の五万三、四五七t。日本電線工業会発表の出荷速報(推定)銅電線出荷量は、前年比三・四%減の五万三、二〇〇tであった。

■国内概況まとめ

【自動車】

日本自動車工業会によると、七月の自動車生産台数は前年比一一・八%増の八九万六、九〇六台であった。

輸出(八月)は三四万九、五一八台で前年同月比五・九%減。

【販売】

日本自動車販売協会連合会によると、九月の自動車販売台数(軽除く)は前年比一二・八%増の三四万七、七〇六台。

このうち、乗用車一三・三%増、貨物は一〇%増、バスは二・五%減。

【住宅】

令和元年八月の住宅着工戸数は七万六、〇三四戸で、前年同月比で七・一%減となった。また、季節調整済年率換算値では八九・二万戸(前月比二・一%減)となった。

住宅着工の動向については、前年同月比で二カ月連続の減少となっており、利用関係別にみると、前年同月比で分譲住宅は増、持家及び貸家は減となった。

引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。(八面へ続く)

LME銅・米中貿易戦争や英国のEU離脱問題が左右か 為替予想

(四面より続く)

【伸銅品生産】

伸銅品生産は前年比一〇・八%減の五万三、四五七tと九カ月連続減少。

今年の八月は、通常より夏季休暇が長く伸銅メーカーの稼働日数が少なかったことが影響した。品種別では、銅条は前年同月比一一・六%減少し、七カ月連続のマイナス。黄銅棒は前年同月比一〇・三%減少し、二カ月ぶりのマイナス。

【電線】

前年比三・四%減の五万三、二〇〇t。このうち、国内は四%減、輸出が二四・六%増。

【輸出】

電気銅輸出が七・二%減の四万六、二四一t、銅スクラップが二・二%増の二万、九四二t。

【輸入】

電気銅が九六・五%減の一〇〇t、スクラップが〇・七%増の二万七四t。

【見通し】

・自動車は生産が一・八%増。国内販売台数が前年比一二・八%増。生産、販売共に大幅増。生産、販売共に調整が入り来月は減少か？

・伸銅品生産は前年比一〇・八%減の五万三、四五七tと九カ月連続減少。消費税前の駆け込みはまだ反映されず、来月も減少か？

・電線出荷は前年比三・四%減の五万三、二〇〇t。このうち、国内は四%減、輸出が二四・六%増。こちらも同様。

・銅輸出は電気銅は減少、スクラップは内需の低迷から大幅増。

・銅輸入は内需低迷から電気銅輸入は大幅減少。

【スクラップ景況予想】

流通在庫は中盤にかけての相場上昇(三万円円)から多少動いたが、塩漬け玉は銅建値が七〇万円程度になれば市中にでてるのではない。需要面に関しては足元の生産状況が徐々に悪化しており減少。前月同様に米中貿易戦争から不透明感が強く、メーカーの購入意欲は低く、スクラップ販売は当面厳しい。

【LME・為替予想】

今月は米中貿易戦争の動向、英国のEU離脱に左右される。

米中貿易に関しては過度な懸念は後退傾向

にあるが、中国建国七〇年となる国慶節で米国を牽制する発言や軍事パレードを行うなどしており、まだまだ混乱は続く？

EU離脱派の党員たちの間では共感を呼ぶなど混乱は続く離脱に関しては、ジョンソン英首相の強硬姿勢が保守党議員との軋轢を生んではいるが、離脱派の党員たちの間では共感を呼ぶなど混乱は続く。

これらを踏まえた十月の銅価格は五、六〇〇〜五、八〇〇ドル(セツル)との予想。ドル円値は一〇六円〜一〇九円(TTM)台を予測。

銅建値に関しては六三〇〜六七〇円程度と予測している。

◇KLT M はず相場

三日 一六・三五〇 米ドル

一三三 トン

◇東工取(三日前引、限月十月)

金 五、一六九 円

銀 六〇・七 円

白金 三、〇六三 円

パラジウム 五、八四八 円

ドル円相場(19年1月~10月3日入電)

